

歴史 | 探訪

~文化財を巡る~②

豊岡の文化財を紹介します。皆さんの身近にある文化財を見ていきましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

「神社建築」(その2)

前回に引き続き、神社建築を紹介します。神社建築の保存修理は、そのままを替えることなく行われます。そのため、屋根の葺き替えや解体修理を数十年に一度、行わなければなりません。

日出神社本殿(国指定)但東町畑山

三間社流造、こけら葺。室町末期建立。建立年は不明ですが、棟札から宝永元年(1704年)と享保11年(1726年)に、また、明治時代に2度修理したことが分かっています。手挟・墓股などは建立当初から残されており、浜床があって身舎正面の柱間が開放であることなどの構造が珍しいとされています。



ことなどの構造が珍しいとされています。

出石神社社殿(市指定)出石町宮内

本殿は、三間社流造、銅板葺。本殿の前面に幣殿と祝詞殿があって、その左右から透塀がぐるりと囲っています。拝殿は舞殿形式になっており、参拝する正面には、平唐破風の向拝が独立して造られています。大正2年(1913年)に再建された代表的な神社建築で、但馬一宮、通称「一宮さん」と親しまれています。



通称「一宮さん」と親しまれています。

四所神社本殿・拝殿(県登録)城崎町湯島

本殿は、三間社流造、銅板葺。拝殿は、入母屋造平屋建、銅板葺。本殿・拝殿は、共に北但大震災で全壊し、昭和3年に再建されました。古来、温泉を守る神として信仰されており、建物は、近代の洗練された上質な神社建築で、県土の歴史的景観に寄与しているとして県登録文化財になっています。



として県登録文化財になっています。

語句の解説

- ・三間社…正面の柱間が3つの神社本殿。
- ・手挟…柱の上の斗栱と屋根材との間にできた三角形の空間を埋めるために設けられた板で、装飾されたものが多い。
- ・浜床…本殿正面の階段の下の床。浜縁ともいう。
- ・幣殿・祝詞殿…本殿と拝殿の間であって、御幣を奉納し、また祝詞を上げる所。
- ・舞殿…神前で舞や神楽を奏する建物。
- ・唐破風…屋根の切妻に取り付けられた、中央が盛り上がり、そり曲がった装飾板。
- ・向拝…参詣者の礼拝のために、社殿の正面の上に張り出した所。
- ・入母屋造…上部は二方、下部は四方にのびる屋根の形。

※流造、こけら葺、墓股、斗栱の解説は7月25日発行の第103号をご覧ください。

【表紙写真】 8月7日、気比の浜海水浴場で「地引網」が開催され、多数の海水浴客らでにぎわいました。参加者は、一生懸命に網を手繰り寄せ、引き上げた網に掛かった魚を触って楽しんでいました。獲れた魚はバーベキューにし、参加者に振る舞われました。

発行/豊岡市
編集/政策調整部秘書広報課
〒666-1111
079-661-1111
FAX 24-11004

兵庫豊岡市中央町の番4号
〒668-8666
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

(総合支所)
竹野 ☎47-31111
出石 ☎52-31111
城崎 ☎54-11001
日高 ☎54-11001
但東 ☎54-11001